



茨城県建築士会
まちづくり委員会
推奨

ひ た ち の く に

常陸国の むかしの家

[体感ルート・ガイドマップ] 筑波山麓編

茨城県建築士会「まちづくり委員会」では、茨城県に残る“むかしの家”を再評価し、その魅力を多くの方に知ってもらうためのプロジェクトを発足させました。題して「常陸国のむかしの家」体感ルート策定プロジェクトです。

第一弾は「筑波山麓編」として、茅葺き民家が数多く残る石岡市八郷地区と、歴史的風情を残すまち並みで知られる桜川市真壁地区を中心にしたルートとしました。各地区の代表的な建物やエリアの特徴などをまとめたのが、この冊子です。


長い時間が刻まれた建築物に接することで、当時の生活——身近な自然と寄り添い、ゆったりと営まれていた人々の暮らしを見直してみることは、一人ひとりの生活の質を考える上で、また地球環境的な観点からも、大きな意味を持つことではないかと思います。ここでご紹介する建築物やまち並みが、みなさんにとって、日々の暮らしの充実や、安心して快適な生活の場の維持といったこと、すなわち“まちづくり”について、考えを巡らせるきっかけとなれば幸いです。

ひたちのくに
常陸国のむかしの家 [体感ルート・ガイドマップ] 筑波山麓編


[目次]

2 全体マップ

石岡市八郷地区

4  木崎邸——主屋と書院、百余年の優美な寄り添い

9  大場邸——華やかな意匠は、技術の証

14  西光院——豪快な懸造り、息を呑む眺望

コラム
いほらき
けんちく
豆知識

6 日本の原風景が広がる石岡市八郷地区


8 筑波流茅葺きの歴史的背景と専門用語ミニ解説


11 そもそも茅葺きの「茅」ってなんのこと？

13 ささまざまな果物狩りが楽しめる「果樹の郷・やさと」スカイスポーツも人気

16 山岳の寺院に多くみられる「懸造り」の技術

桜川市真壁地区


18  真壁地区の特徴

20  真壁まち並みマップ

22  村井醸造——天を突く煙突は、真壁一の目印

24  伊勢屋旅館——明治の「粋」が、今も建物に宿る

25  木村家——江戸時代から続く「店舗」のかたち

26  鈴木醸造——長屋門の真壁代表、堂々の立ち姿

コラム
いほらき
けんちく
豆知識

28 [つくば市] 平沢官衙遺跡

30 [石岡市] 常陸風土記の丘

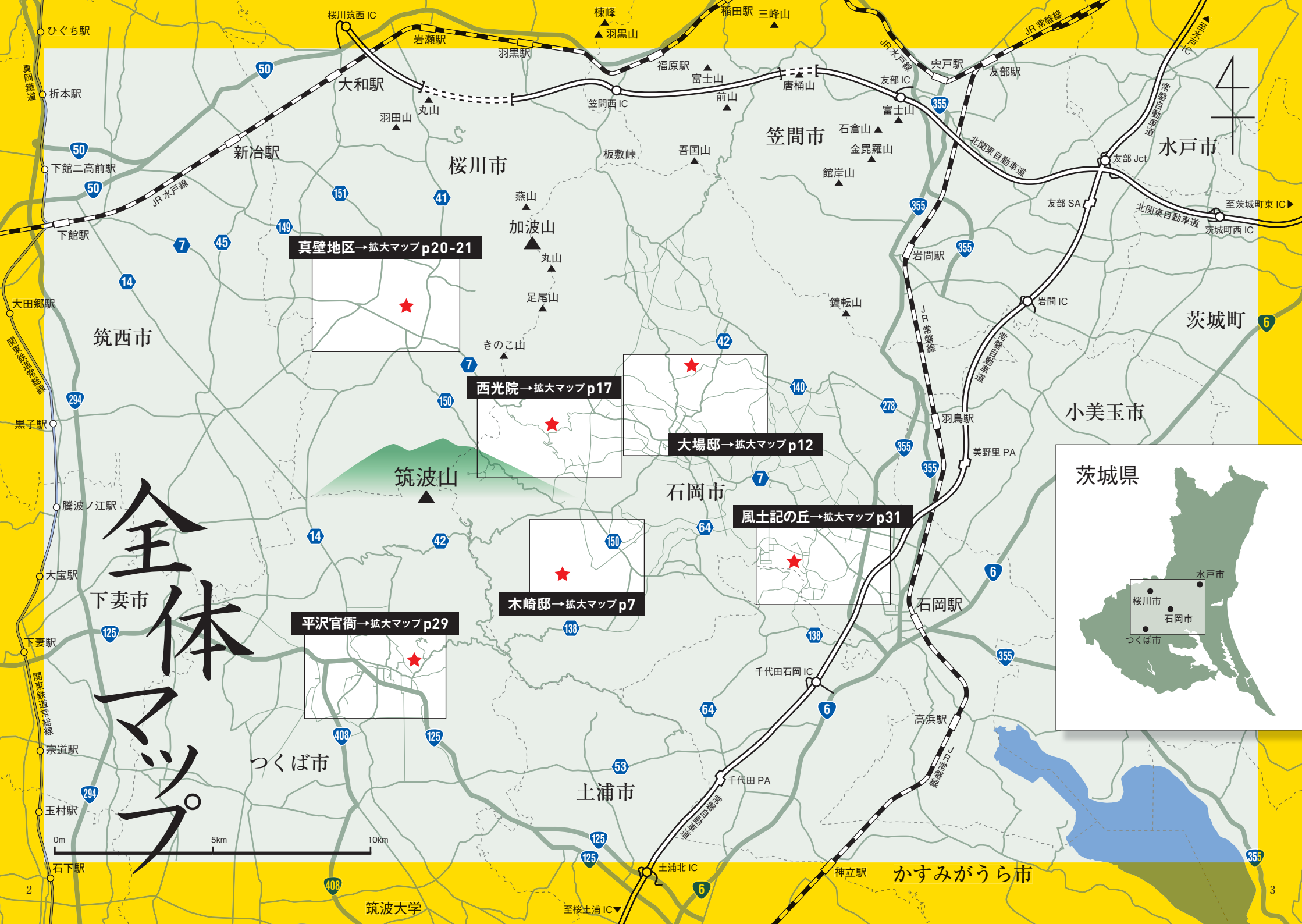
32 タイムテーブル

33 茨城県建築士会について

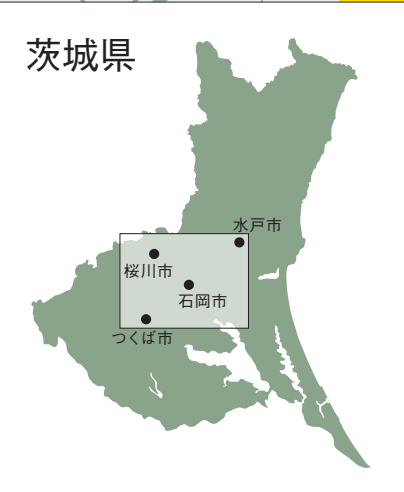
23 風情あるまち並みの形成には、建築物以外の要素も重要

27 10万人が集まる「ひなまつり」、売出し中の「うまかべすいとん」、真壁の名物いろいろ

表紙写真：石岡市八郷・木崎邸四脚門



全体マップ



真壁地区 → 拡大マップ p20-21



西光院 → 拡大マップ p17



大場邸 → 拡大マップ p12



風土記の丘 → 拡大マップ p31



木崎邸 → 拡大マップ p7



平沢官衙 → 拡大マップ p29



おも
や
主屋と書院、
百余年の
優美な寄り添い。

木崎邸

石岡市
八郷地区
茅葺き
民家



かやぶ
茅葺き屋根の素晴らしさを
なんとか次の世代に伝えたい。
それが使命だと思っています。

——木崎眞さん



木崎邸2棟の茅葺き。右手側、正面を向いて建つのが主屋、左手が書院

鮮やかな青の^{こてえ}鍍絵（漆喰で作られたレリーフ）が施された存在感ある門をくぐると、池のある庭園が広がり、その奥に端正な表情の2棟の茅葺き屋根が寄り添うように建つ——。

木崎眞邸は、石岡市^{やさと}八郷地区に残る75棟の茅葺き民家のなかでも、とりわけ風格ある佇まいの屋敷です。茅葺き屋根の保存には大変な労力・コストが必要だといわれますが、木崎邸では主屋と書院（離れ）の2棟を見事な姿で維持しています。主の木崎さんは、「やさ」と茅葺き屋根保存会」を立ち上げ、会

長を務めている人物。茅葺きを心から愛し、その姿とそこに息づく技術をなんとか次の世代に継承したいという、木崎さんのまっすぐな情熱と純粋な想いが、そのまま屋敷の佇まいにも現れているようです。

木崎邸の主屋の特徴は、トオシモノと呼ばれる茅の縞模様が7本も施されていること。そのため茅の厚さが3尺5寸（約1m）、軒の出は6尺5寸（約2m）にもなり、下から見るとその迫力に圧倒されます（次ページの写真）。「ぐし」と呼ばれる屋根の最上部の端には、この地域



上:「ぐし」と呼ばれる屋根のつべんには、シュロを使った「ちょんまげ」の装飾が施されている
左:2メートルにも及ぶ迫力の軒の出



建築データ

所在地:石岡市上青柳354

所有者:木崎 眞

*一般の住居です。見学や写真撮影は、必ず木崎家から許可を取った上で行ってください。

問合せ:石岡市八郷総合支所商工観光課
TEL.0299-43-1111

建築用途:住宅 / 建てられた時期:江戸期

主屋——木造平屋建て、間口8間、奥行5間/トオシモノ:7本、隅部に竹の装飾/ぐし:竹簧巻/キリトビ:西に寿の文字、東に鶴亀の絵/煙出し:瓦

書院——木造平屋建て、間口4.5間、奥行4間/トオシモノ:4本/ぐし:竹簧巻、大名ぐし/キリトビ:南に寿の文字、北に水の文字/煙出し:なし



の茅葺きではもっとも多い「寿」の文字の入った細工(「キリトビ」)が見られます。一方、書院のぐしには、シュロで作られた文字通り「ちょんまげ」(あるいは「大名ぐし」と呼ばれる装飾が施されています。

筑波山麓の豊かな里山を背に、田園のなかに佇む木崎邸。周囲の自然と一体になって、日本の原風景ともいえる穏やかで美しい農村の景色を、静かに今の時代に伝えています。

茅葺き民家75棟が現存。 日本の原風景が広がる石岡市八郷地区

コラム
いばらき
けんりく
豆知識

筑波山麓の豊かな自然に抱かれたこの地には、75棟もの茅葺き民家が現存しています。そのほとんどが、八郷の豊かさの象徴として江戸期から明治期に建てられ、代々住む人々の手で大切に守られて、現在も「住まい」として活用されているものです。「筑波流茅手」と呼ばれるこの地域の茅葺き職人による、高度で洗練された技術を使った華やかな装飾が施されているのが特徴です。

八郷地域では現在、木崎氏、大場氏を中心とする茅葺き民家の住人や茅葺き職人らによって「やさと茅葺き屋根保存会」が組

織され、里山の美しい風景とともに、茅葺き民家の保存、茅葺きにまつわる文化や技術を継承する活動が積極的に行われています。しかし、一方で、茅場の減少や刈り手不足から茅の確保が年々難しくなっており、また、茅葺き職人の深刻な後継者不足など、緊急に取り組みなくてはならない課題が山積しているのも現状です。



華やかな意匠は、
技術の証。

コラム
いはらき
けんらく
豆知識

筑波流茅葺きがよくわかる！ 歴史的背景と 専門用語ミニ解説

●筑波流茅葺き

全国的に見ても最高級の洗練された技巧を持つのが、筑波流の茅葺きです。筑波大学教授で茅葺き研究の第一人者である安藤邦廣氏は、このような高い技術の背景には、次の2つのことがあると分析しています。①この地が温暖で、1年じゅう作物を収穫できるため、農家が経済的に豊かで家づくりにお金をかけられたこと ②会津などから出稼ぎに訪れる茅葺き職人も多く、仕事を得るため職人同士が自然と技術を競い合うようになったこと。細かな技巧を実現するために、使用する道具の種類が他の地域と比べて圧倒的に多いことも筑波流の特徴です。

●トオシモノ

わら、古茅、新茅を交互に葺いて、一層一層を刈り込み、美しい縞模様を見せる軒の仕上げを「トオシモノ」と呼びます。縞の数により1本、2本…と数えます。

●ぐし

屋根のてっぺんの棟のことを「ぐし」と呼びます。筑波流茅葺きのぐしは、「竹箆巻」という方法が用いられます。雨漏りを防ぐために茅の上に杉皮などを葺き、それらが風で飛ばされないように、竹のすのこで巻く方式です。

●キリトビ

ぐしの小口に装飾が施されたおさめ方を「キリトビ」と呼びます。家ごとに異なる手の込んだキリトビを見ることができ、筑波流茅葺きの大きな特徴となっています。



トオシモノは木崎邸、キリトビと建物内部は大場邸のものです



大場邸
石岡市
八郷地区
茅葺き
民家



茅葺き屋根のてっぺん、「ぐし」(棟の部分)の小口に施された赤・緑・白色の色鮮やかな装飾。洗練された高度な技術を持つ「筑波流茅手」(この地域の茅葺き職人)の真骨頂ともいえるのが、この大場邸の松竹梅の装飾です。「キリトビ」と呼ばれるこのような屋根の飾りは、筑波流独特のものであり、茅葺きの技術的にも最高レベルと称されるものです。

主の大場さんは、前出の木崎さんと並んで、八郷地区の茅葺き屋根の保存に力を尽くす人物。平成17年には、八郷の他の茅葺き民家に先駆けて、この

家屋を国の「登録有形文化財」として申請し、認定を受けています。

「とにかく茅葺きが好きで好きで。筑波流の茅葺き職人の技に惚れこんでいます」と大場さん。自慢の見事なキリトビは、茅葺き屋根に対する大場さんの深い愛情と、今は亡き筑波流茅手・岩崎さんの職人魂が共鳴し合い、生み出された傑作です。

平成19年の4月、大場邸は15年ぶりに茅の葺き替えを行いました。茅は「家の中で火を起こしていぶさないとうりでも持ちが悪くなる」(大場さん)ため、入

り口から続く土間に囲炉裏を設置。葺かれたばかりの明るい色調の茅が、囲炉裏の煙でゆっくりと、丈夫で長持ちする茅へといぶされていきます。

キリトビと並んで大場邸のもうひとつの特徴となっているのが屋根の「煙出し」。墨で大きく描かれているのは「水」の文字です。「火事などの災害が起こらないように」という、茅葺きを愛する大場さん一家の願いが込められています。

出きるかぎりずっと
住んでいたい。
茅葺きに
惚れているのです。
——大場 克巳さん



上:「煙出し」。大きく「水」の文字が描かれている。白く染めた竹の小口を使った装飾も/下:軒にも同様の繊細な飾りがみられる

コラム
いばらき
けんちく
豆知識

そもそも茅葺きの「茅」って なんのこと?

茅葺きの「茅」とは、広義では屋根を葺く草全般を指しますが、狭義では、もっともよく使われる「ススキ」を指すことが多いようです。ススキ(イネ科ススキ属の多年草)は屋根を葺く材料のなかでも高級なため、上層農家に多く用いられました。ススキ以外にも、ヨシ(イネ科ヨシ属の多年草/葦と同じ)、シマガヤ(クサヨシというイネ科の多年草またはカモノハシというイネ科多年草をこ

呼ぶ)、稲ワラ、麦ワラといったものが屋根を葺く材料として用いられてきました。

かつては、集落ごとに共同で、山林のなかに「茅場」と呼ばれる茅の生育する広大な敷地を持ち、毎年2、3件の葺き替えができるよう管理していたようですが、現在八郷ではそのような共同の茅場は存在しません。私有地に1反から3反歩ほどの茅場を持つ家が数件存在するのみとなっています。



建築データ

所在地：石岡市佐久258

所有者：大場 克巳

*一般の住居です。見学や写真撮影は、必ず大場家から許可を取った上で行ってください。

問合せ：石岡市八郷総合支所商工観光課
TEL.0299-43-1111

建築用途：住宅

建てられた時期：江戸期

主屋——木造平屋建て、間口8間、奥行4.5間／トオシモノ：5本、隅部に竹の装飾／ぐし：竹簧巻、大名ぐし
／キリトビ：西に寿の文字、東に松竹梅の絵／煙出し：瓦、水の模様



1年を通じてさまざまな果物狩りが楽しめる「果樹の郷・やさと」

気候が温暖な八郷は、果樹栽培が大変に盛んです。観光農園も多く（前ページで紹介している大場さんもぶどう園を営んでいます）、1年を通じて果物狩りが楽しめます。茅葺き民家の見学とともに、旬の果物狩りを組み合わせれば、文字通り八郷の魅力を存分に「味わう」ことができるというもの。

主な果物狩りと時期は次の通りです。

いちご狩り	1月～5月
ブルーベリー狩り	6月下旬～8月中旬
ぶどう狩り	7月下旬～10月中旬
梨狩り	8月中旬～10月上旬
りんご狩り	9月中旬～11月下旬
栗狩り	9月中旬～10月下旬
柿狩り	9月中旬～11月下旬
みかん狩り	10月中旬～12月上旬

問合せ：石岡市八郷総合支所商工観光課
TEL.0299-43-1111

果物のほか地元の新鮮な農産物を扱う直売所もありますので、ご利用ください。

問合せ：石岡市やさと農産物直売所
TEL.0299-36-5031



八郷では、1年を通じてさまざまな果物狩りが楽しめる

スカイスポーツも人気

また、八郷は、ハンググライダーやパラグライダーなどスカイスポーツが盛んな地としても知られています。板敷山や足尾山に基地があり、ハンググライディング日本選手権の会場にもなっています。晴れた日には、色とりどりの翼が山から飛び立ち、優雅に空を舞う様が楽しめます。



ハンググライダーやパラグライダーも盛ん



石岡市
八郷地区
寺院

西光院

豪快な懸造り、
息を呑む眺望。

参道の山道を200メートルほど歩くと、眼前に寄せ棟で銅板葺きの屋根が懸かる本堂が現れます。さらに歩を進め本堂の手前まで到達すると、その先に空が広がり、景色への期待が高まります。

西光院は天台宗に属し、正式名称を「峰寺山西光院」といいます。本堂は懸造りと呼ばれる形式で岩の上に建ち、その形状から「関東の清水寺」とも称されます。

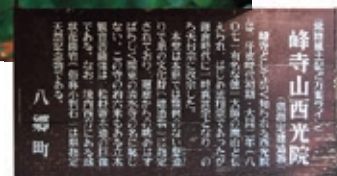
建築時期は寛政3年(1791年)。桁行、梁間とも3間で、三方に回縁をまわしており、組物は^{ふたてさき}二手先一重尾垂木^{おだるき}拳鼻^{こぶしほな}付き。外陣は^{かがみ}鏡天井、内陣は^{ごう}格天井になっています。

見どころは、なんといっても岩の上からせり出して建つ本堂の豪快さ、そして回縁から眼下に広がる眺望。天気の良い日は文字通り「絶景」を楽しむことができます(ただし、回縁上からの撮影、飲食などは禁止されているので注意してください。また建物の性質上、団体で見学をする場合は必ず事前に連絡をしてください)。

境内には、平安時代末期の作で県指定の文化財になっている立木観音菩薩像も祀られています。(加藤誠洋)



西光院本堂





県指定文化財となっている
立木観音菩薩像

建物を支える「架構」部分

コラム
いはらき
けんちく
豆知識

この形式の建物を挙げてみると、「東大寺二月堂」(1669年)、「室生寺金堂」(9世紀後半)、「長谷寺本堂」(1650年)、「石山寺本堂」(正堂は1096年、礼堂と合の間は1602年)、「三仏寺奥院(投入堂)」(700年頃?)などがあります。

関東では、千葉県の「笠森観音」が有名で、ここは四方懸造りといって建物の周りがぐるっと懸造りで支えられています。

これらの建物に共通しているのは山岳信仰や観音様を祀る観音堂に関係が深いことです。

さて、現代の懸造りが我が県にありました。つくば市に建つ「筑波第一小学校体育館」(1987年/設計:下山真司)がそれです。

山岳の寺院に多く見られる「懸造り」の技術

西光院のように、斜面に建築する建物の“地盤”にあたる部分までを架構によって構成し、その上に建物をつくる形式を「懸造り(かけづくり)」あるいは「懸崖造り(けんがいつくり)」といいます。

懸造りが用いられた建物は各地に見られます。特に京都の「清水寺」(1633年)は、「舞台造り」ともいわれる広い回縁を持つ懸造りの代表的な建物です。

建築データ

所在地：石岡市吉生 2734

名称：峰寺山西光院

TEL.0299-43-6938

*回縁上からの撮影、飲食などは禁止されているので注意してください。また建物の性質上、団体で見学をする場合は必ず事前に連絡をお願いします。

建築用途：寺院

建てられた時期：江戸期 寛政3年(1791年)

懸造り、桁行3間、梁間3間/三方に回縁/

組物：二手先一重尾垂木拳鼻付き/外陣：

鏡天井/内陣：格天井





青いはつぴが「真壁の町並み案内ボランティア」の皆さん。案内上手な方ばかり



建物にまつわる話を聞きながら、ボランティアの方とまちを歩く



風情ある建物を前に記念撮影



上：通りぞいのちょっとした演出に、まちへの思いがのぞく
右：通りにも歴史あり。名前の由来が掲げられている



真壁地区

桜川市真壁地区

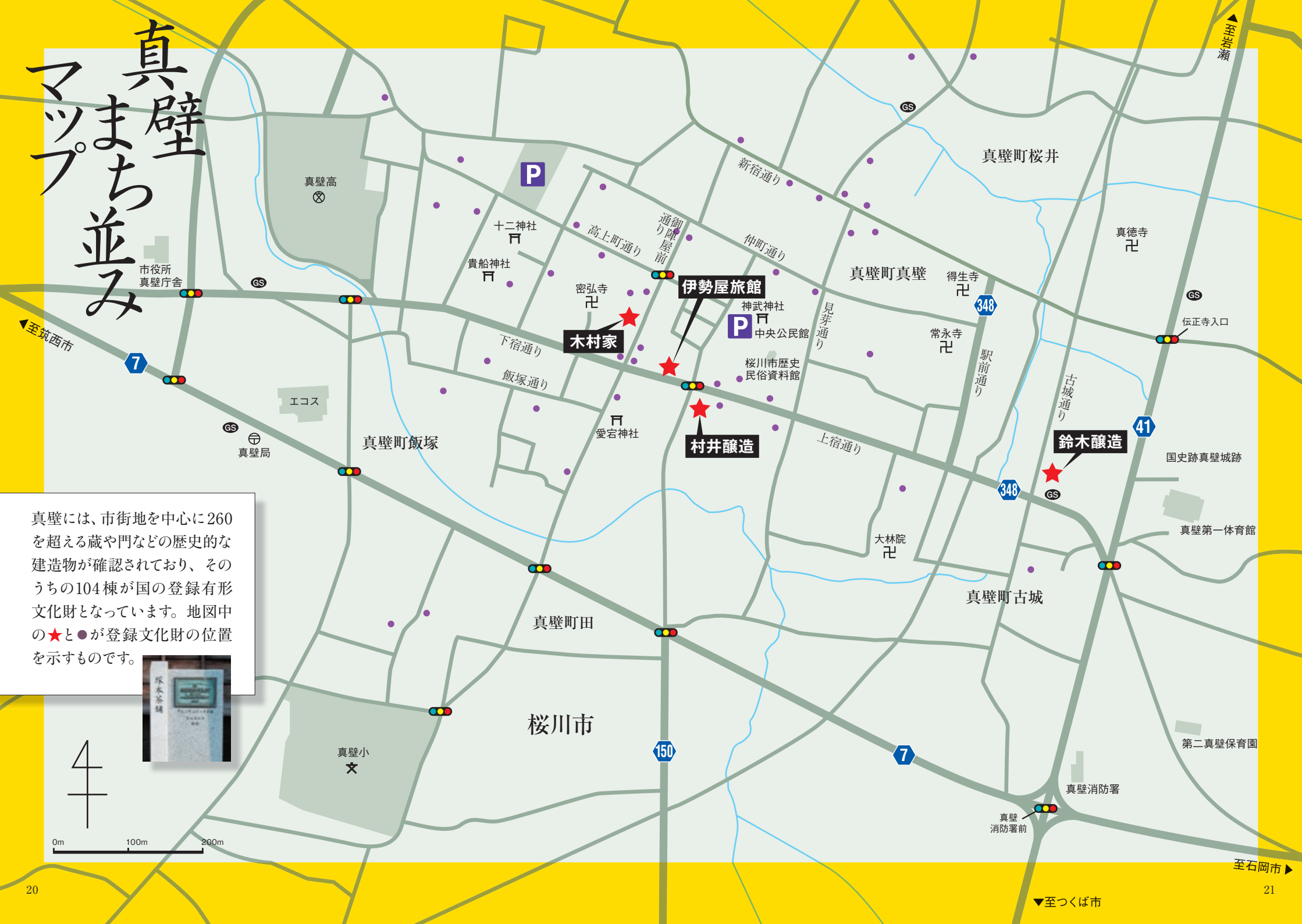
真壁のまち並みの最大の特徴は、江戸期初頭に成立した町割りがほぼ残されていることです。歴史的な建造物や塀・寺社・樹木・石塔などが往時のまま佇み、風情ある景観を形成しています。また、各通りから望む山並みもこのまち並み景観を構成する重要な要素となっており、この地域の貴重な資源となっています。

登録文化財を示す案内板、台座は真壁石製

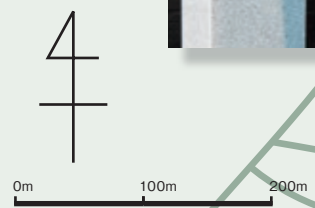


美しい板塀。茨城県建築士会桜川支部が主導する修景事業の成果です（→P27）

真壁 ままたち並み マップ



真壁には、市街地を中心に260を超える蔵や門などの歴史的な建造物が確認されており、そのうちの104棟が国の登録有形文化財となっています。地図中の★と●が登録文化財の位置を示すものです。





桜川市
真壁地区

村井醸造

天を突く煙突は、
真壁一の目印。
ランドマーク

村井醸造は、下宿通り沿いに広大な敷地を構える酒造会社です。通りの南側に正門と土蔵、向かい側に石蔵を構えます。正門を入ると、正面には明治期に建設された土蔵造りの店舗や、昭和初期に建設された鉄筋コンクリート造の煙突が見え、その奥にも多くの土蔵が連なります。

通り沿いから見ると、建物の背後に山並みを仰ぐことができ、この地区のランドマーク的な役割を果たしているといえます。最近では、西側の倉庫の波トタンの外壁を杉板で覆う試みが茨城県建築士会桜川支部によって行われ、いっそう風情ある景観となりました。

なお、店舗向かいの商品販売スペースには

建築データ

所在地：桜川市真壁町真壁72

所有者：村井重司

TEL.0296-55-0005

建築用途：酒造工場

脇蔵——土蔵造2階建、明治期 石蔵——石蔵造平屋建、大正期 店舗——土蔵造2階建、瓦葺、明治初期 煙突——鉄筋コンクリート造、高さ22m、昭和初期

試飲コーナーが設けられ、関係者に声を掛ければいつでも、お酒やこの地から湧き出る仕込み水をいただくことができます。(加藤誠洋)



脇蔵、石蔵、店舗、煙突と、全4棟の登録文化財を有する

風情あるまち並みの形成には、建築物以外の要素も重要

歴史的な建造物が数多く残る真壁地区。旧真壁町内では、現在104棟の建造物が国の登録有形文化財となっており、特色あるまち並みを形成しています。

風情あるまち並み形成には、建物以外

の要素も重要な役割を果たします。真壁の場合は、江戸期に整備された町割りや寺社、歴史を経て大きく育った樹木、路傍に佇む石仏などがそうです。

こうした“資源”に目を向けてみると、まちの見方が変わって、思いがけない発見に出会うかも知れません。

コラム
いばらき
けんちく
豆知識



明治の「粹」が、
今も建物に宿る。

平成の今も変わらず旅館業を営む

桜川市
真壁地区

建築データ

所在地：桜川市真壁町真壁193
所有者：田中 順、田中 ヨシ
TEL.0296-55-0176

建築用途：料亭→旅館
建てられた時期：明治中期
主屋——木造2階建
土蔵——土蔵造2階建

伊勢屋 旅館

下宿通り北側に面して建つ、国の登録有形文化財となっている木造2階建ての建物が伊勢屋旅館です。以前は「勢州楼」と称し、真壁地区で最も名の知られた料亭でした。

店舗とその東隣に建つ門とがあいまって通り沿いの景観を形成しています。

残された資料から、建築時期は明治期と見られ、この時代の料亭の造りや構造を知る手がかりとして貴重です。また、敷地の奥には同時期に建築されたと見られる土蔵も残されています。

土間敷きの玄関に入って正面にある帳場までは、声を掛ければ見学が可能です。そこから内部の構造ものぞくことができます。(加藤誠洋)

御陣屋前通り沿い西側に見世蔵と薬医門が建ち、江戸期に真壁地区の中心地区として栄えた面影が残ります。

江戸期に酒屋を営んだ後、木村家は、明治5年より郵便局を始めます。昭和31年には、今でも御陣屋前通り北側に残る旧五十銀行の建物を取得して郵便業を拡げ、さらに銀行業や穀商も営むなど地元の名士として知られました。

木村家

見世蔵、門、主屋の建築時期は、資料から嘉永6年(1853年)とされています。なかでも見世蔵に関して

建築データ

所在地：桜川市真壁町真壁217-1
所有者：木村 しつ子

建築用途：酒屋→郵便局
建てられた時期：江戸期 嘉永6年(1853年)
見世蔵——土蔵造2階建
主屋——土蔵造2階建

は全国的に見ても年代の古い遺構として貴重です。

現在は生花店が借り受け、店先を飾る花々が通りに彩りを添えています。(加藤誠洋)

現在は「小田部生花店」が営業している



江戸時代から続く「店舗」のかたち。

桜川市
真壁地区

右：重厚な構えの大規模な主屋
下：中央に両開きの大戸、その左右に片開きの潜り戸が設けられた長屋門



建築データ

所在地：桜川市真壁町古城191

所有者：鈴木 正徳

TEL.0296-55-1161

建築用途：農家住宅→しょうゆ醸造業

主屋——木造平屋建、嘉永7年(1854年)

長屋門——木造平屋建、明治初期



長屋門の真壁代表、
堂々の立ち姿。
鈴木醸造

鈴木家は、近世初期から、この地で農業を営んできた旧家として知られ、醸造業は大正14年に始まり今に至ります。

場所は、真壁城跡近くの旧町屋村と接する地区。南北に通じる通りの東側に桁行8間半、梁間2間の長屋門があり、その奥に立派な玄関をつける桁行11間、梁間4間の大規模な主屋が建ちます。屋根は当初茅葺きでしたが、明治末期から

大正初期頃、瓦に葺き替えられています。

建設時期は、主屋が資料から嘉永7年(1854年)と判明し、長屋門は言い伝えから明治初期であると見られています。数多くの長屋門が建つ真壁地区を代表する遺構として、また主屋は真壁町の市街地に現存する数少ない江戸末期の上層農家住宅として、大変貴重であるといえます。(加藤誠洋)

10万人が集まる「真壁のひなまつり」、
売出し中の「うまかべすいとん」、真壁の名物いろいろ

平成15年に始まり、今やすっかりまちの名物となった「真壁のひなまつり」。毎年2月4日から3月3日まで、各家々が江戸時代から平成までの雛人形を飾るこの祭り、期間中の観光客は10万人を突破する勢いです。その他にも、真壁には風情ある祭りがいくつかありますので、ご紹介しましょう。

- 真壁神武祭 4月
春の訪れを告げるお祭り。植木市などを開催
- 真壁祇園祭 7月23日～26日
五所駒瀧神社の例祭で400年の歴史を持ちます。4台の山車がまち並みを練り歩きます。
- まかべ夜祭 8月下旬
まち並みに、地域の住民がたくさん灯りを並べる、幻想的な雰囲気夜祭です。
- かったて祭 8月31日
五所駒瀧神社の氏子たちが権現山の山頂にある神社に神火を奉獻するお祭り。山を登る松明の列が夏の終わりを告げます。

真壁には和菓子屋が多いのも特徴です。まち歩きをしながらさまざまな和菓子を楽しむことができ、スイーツ好きにも人気を博しています。また、最近では、歴史の古い食べ物「すいとん」を「うまかべすいとん」と銘打ち、新たな名物として売り出し中で、各飲食店が工夫を凝らしたさまざまなすいとん料理を味わうことができます(夏季は販売していないお店もあります)。

問合せ：桜川市真壁商工会
TEL.0296-55-4111



コラム
いはらき
けんちく
豆知識

このノボリが「うまかべすいとん」の目印

「真壁のひなまつり」

黒板塀で修景。建築士会も積極的に
真壁の「まちづくり」に参加しています

茨城県建築士会桜川支部では、地域住民の協力を得て、既設のブロック塀やトタンの塀を、真壁の歴史的なまち並みに合う黒板塀で覆う修景事業を行っています。村井醸造の広大な敷地を囲むトタン塀も、ボランティアの協力を得て美しい板塀へと生まれ変わりました。

この板塀によるまちづくり活動は、平成19年度の県の「まちづくりグリーンリボン賞」(茨城県内において景観に配慮した建築物

や優れた住環境を整備した個人・団体に贈られる)を受賞。建築士会も積極的に真壁のまちづくりに協力しています。



修景前：トタン板塀

修景後：景観に合う板塀に

千年前の
「つくば」に
想いを馳せる。



3棟の高床式倉庫。左から板倉、土壁双倉(つちかべならびくら)、校倉(あぜくら)

つくば市
国指定
史跡

平沢官衙遺跡

平沢官衙遺跡は、今から千年以上前の奈良・平安時代に造営された、常陸国筑波郡の郡衙(役所)の一部と見られる遺跡です。郡衙の遺跡は全国でも珍しく、国指定史跡となっています。

1993年から94年にかけて行われた本格的な調査により、約60棟の建物跡が発見され、そのほとんどが、一般の遺跡には見られない大型の高床式倉庫のものでした。整然と並ぶそれら建物群を、大きな堀が取り囲んでいたこと



建築データ

所在地：つくば市平沢353
 問合せ：平沢官衙遺跡歴史ひろば案内所
TEL.029-867-5841
 開所時間：午前9時から午後4時30分
 休所日：月曜日、祝日の翌日、年末年始
 3棟の復元高床式倉庫：[中央の建物] 土壁双倉(つちかべならびくら)、[向って右の建物] 校倉(あぜくら)、[左の建物] 板倉(いたくら)

などから、ここは当時の税である稲などを納めた、役所の正倉院跡と考えられています。

郡衙として最盛期を迎えたのは8世紀で、8世紀前半には台地の端に建てられていた建物が、8世紀後半になると、中央に集まり大型化していきました。復元整備に当たっては、その時期のもので全形がほぼ明らかな23棟が選ばれ、なかでも規模がはっきりとわかる中央の3棟が、推定復元されています。





縄文時代住居



鹿の子史跡(工房・住居ブロック)



鎌倉時代民家



鹿の子史跡(官衙ブロック)



鹿の子史跡(官衙ブロック)



江戸時代民家(直屋)



江戸時代民家(曲屋)

古代から近世まで、「むかしの家々」の競宴。

石岡市
余暇活用
施設

常陸風土記の丘



数多くの遺跡や古墳を有する歴史の里・石岡市が運営する「常陸風土記の丘」。ここはいわば「むかしの家」体験レジャーパークとでもいうべき余暇活用施設です。

広大な敷地は複数のエリアに分けられ、「古代家屋復元広場」では、古代人の竪穴式住居から、奈良・平安～鎌倉時代の中世の民家、そして江戸時代後期以降の近世の民家などの復元を見ることができます。また、隣接する「鹿の

子史跡公園」エリアには、常磐自動車道路建設時に発掘調査された、かつての常陸国の官営工房跡と見られる貴重な遺跡の一部、全12棟が復元されています。

3万平方メートルに及ぶ水際公園には、古代ハスの群生する池があり、開花期には優雅な咲き姿の花々が水面を覆い、見事です。14メートルの高さを誇る巨大な獅子頭展望台も、名物キャラクターとして人気を集めています。

建築データ

所在地：石岡市染谷1646

問合せ：常陸風土記の丘事業所

TEL.0299-23-3888

開園時間：午前9時から午後5時(3月～10月)

午前9時から午後4時(11月～2月)

休園日：月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始

入園料：310円(大人)、150円(6歳～15歳)



タイムテーブル

- この冊子でご紹介している「むかしの家々」を1日で巡るタイムテーブル案です。
- 発着地にはJR線水戸駅から車で約10分の「常陸風土記の丘」を設定しました。また、移動手段は普通乗用車を前提としています。*大型車・大人数の場合は、所要時間が増すことが予想されます。
- 1日で巡るルートとしては、目的地がやや多めの設定になっています。より余裕を持った見学をご希望の方は、この案をもとに日程や見学地の数などをご調整ください。
- とくに「常陸風土記の丘」は広大な面積を有する施設です。このタイムテーブルでは「家」の見学に限った時間を想定していますが、施設をゆっくり見学するには最低でも1時間以上確保することをお勧めします。
- 冬季に巡る際はなるべく早めにスタートしましょう。*日の入りが早く、17時には暗くなりますよ。

見学地	見学時間	移動時間(距離)	時刻(ご参考)
 常陸風土記の丘	20分		9:00～9:20
	↓	20分(10km)	
 木崎邸	20分		9:40～10:00
	↓	20分(10km)	
 大場邸	20分		10:20～10:40
	↓	30分(13km)	
 西光院	20分		11:10～11:30
	↓	20分(7km)	
真壁のまち並み			
 村井醸造	120分 (昼食含む)		11:50～13:50
 伊勢屋旅館			
 木村家			
 鈴木醸造			
	↓	40分(17km)	
 平沢官衙遺跡	20分		14:30～14:50
	↓	40分(21km)	
常陸風土記の丘			15:30 終了

合計: 約6時間30分 (見学時間: 約3時間40分 / 移動時間: 約2時間50分)

社団法人茨城県建築士会について

社団法人茨城県建築士会は、茨城県内に居住または勤務する建築士を中心に構成されている組織です。会員同士が協力し合い、建築士の業務の進歩改善と建築士の品位の保持、向上を図り、建築文化の進展に資することを目的に、社会に対する活動と会員相互の交流活動を行っています。

組織の中には、会としての目的達成と事業活動の効率化のために委員会が設置されています。わたしたち「まちづくり委員会」では、一般の方を交えてのワークショップ、シンポジウムを実施するなどして、住みよいまちづくりに寄与する活動を行っています。

ひたのくに
常陸国のむかしの家
〔体感ルート・ガイドマップ〕 筑波山麓編

発行 社団法人 茨城県建築士会
会長 柴 和伸
〒310-0852
茨城県水戸市笠原町978-30
建築会館2階
TEL.029-305-0329
FAX.029-305-0330
Eメール kyy05413@nifty.com
http://homepage1.nifty.com/ishikai/

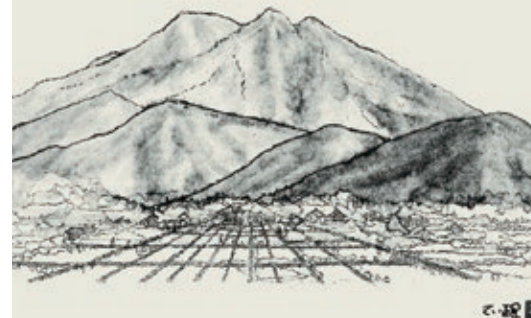
編集 まちづくり委員会
武村 実 / 手塚 邦雄 / 大高 昇 / 小池 祐市
小谷野 栄次 / 梶 ひろみ / 島田 哲 / 江面 松男 / 杉田 次夫 / 中崎 妙子 / 中山 和朗
小池 正理 / 篠根 玲子 / 加藤 誠洋

協力 石岡市商工観光課 / 茅葺民家調査保存委員会 / 財団法人石岡市開発公社常陸風土記の丘事業所 / 桜川市商工観光課 / つくば市教育委員会 / 峰寺山西光院 (五十音順)

デザイン 有限会社 平井情報デザイン室

初版発行 平成20年4月1日

*この冊子に掲載した情報は平成20年3月現在のものです。





八郷地区茅葺き民家および観光に関するお問合せ

石岡市八郷総合支所商工観光課 TEL.0299-43-1111

〒315-0116 茨城県石岡市柿岡5680-1



八郷地区の農産物に関するお問合せ

石岡市やさと農産物直売所 TEL.0299-36-5031

〒315-0153 茨城県石岡市下青柳1361-1



西光院に関するお問い合わせ

峰寺山西光院 TEL.0299-43-6938

〒315-0156 茨城県石岡市吉生2734



真壁地区の観光に関するお問合せ

桜川市商工観光課 真壁庁舎 TEL.0296-55-1111

〒300-4495 茨城県桜川市真壁町飯塚911



真壁地区の文化財に関するお問合せ

桜川市教育委員会 文化生涯学習課文化財係 TEL.0296-55-1111

〒300-4495 茨城県桜川市真壁町飯塚911



平沢官衙遺跡に関するお問合せ

平沢官衙遺跡歴史ひろば案内所 TEL.029-867-5841

〒300-4213 茨城県つくば市平沢353



常陸風土記の丘に関するお問合せ

常陸風土記の丘事業所 TEL.0299-23-3888

〒315-0007 茨城県石岡市染谷1646



社団法人 茨城県建築士会 TEL.029-305-0329

〒310-0852 茨城県水戸市笠原町978-30 建築会館2階